Clarion

Clarion Report 2012

会 社 概 況 ● CSRレポート

クラリオン株式会社

Clarion Report 2012

● 編集方針
クラリオンレポートは、「会社概況」と「CSRレポート」で構成されております。クラリオンの「企業力」をお伝えするとともに、
クラリオンのCSR（企業の社会的責任）に対する取り組みをわかりやすく報告することを目的に編集しています。

● 報告対象範囲
クラリオン株式会社および国内・海外連結子会社

● 報告対象期間
2011年度（2011年4月1日から2012年3月31日）の実績。一部に2012年度の事象も含めています。

● 次回発行予定
2013年

◎ 編集委員
（クラリオンレポート2012編集委員会）
愛知 正人、赤松 絵里子、上原 章子、後藤 圭希、徐 慶龍、堂出 祐加、
中原 史江、野波 伸壽、藤枝 照久、寶門 直子、茂木 憲司、楊 樹棟、
吉田 綾子、廉 美蘭 （五十音順）

◎ お問合せ先
クラリオン株式会社 本社事務所
TEL: 048-601-3700（代表）
■ 会社概況については、社長室までお問い合わせ下さい。
■ CSRレポートについては、CSR推進室までお問い合わせ下さい。

Clarion

本社・技術センター　〒330-0081　埼玉県さいたま市中央区新都心7番地2　TEL:(048)601-3700
本 社 事 務 所　〒330-6030　埼玉県さいたま市中央区新都心11番地2 ランド・アクシス・タワー30F　TEL:(048)601-3700
http://www.clarion.com/

このレポートの内容は、インターネットでもご覧になれます。 http://www.clarion.com/jp/ja/company/effort/index.html

第二版発行

UD FONT　ユニバーサルデザイン（UD）の考え方に基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。
● UD FONT マークは、株式会社モリサワの登録商標です。

森の町内会 間伐に寄与する紙 www.mori-cho.org
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C001793

CARBON OFF SET
このレポート13,000部を印刷・製本する際に排出された CO2排出量 177.53Kgは、カーボンフリーコンサルティング株式会社を通じ、国内企業により創出された排出権（国内クレジット）によってカーボンオフセットされ、地球温暖化防止に貢献します。
証明書番号：1206271705167

VEGETABLE OIL INK

クラリオン株式会社
取締役社長

泉 龍彦

クルマ・人・環境を つなぎ、新たな価値を 創造する。

昨年は東日本大震災やタイの水害など、自然災害の脅威にさらされた一年でした。まだまだ復興は終わっておりませんし、被害に遭われた方々が一日も早く回復されることを心よりお祈り申し上げます。

変動が大きく且つ厳しい経済環境が続く中、幸いにもクラリオンが事業基盤としている自動車産業はグローバルでの経済回復の牽引役として期待されている産業です。エリア毎に経済環境の影響はありますが、グローバルでは今後も大きな成長が見込まれる産業です。とりわけ、エマージングカントリーでの成長が期待されています。更にその中でも当社のドメインである“車載情報機器”分野は大きな飛躍の可能性を持った転換期を迎えています。

車には「エコ」「安全」という二つの解決せねばならない課題が有ります。その解決策としてクラウドコンピューティングの活用が大きくクローズアップされています。以前からIT活用による解決構想はありましたが、ここ数年の通信テクノロジーの発展が新たな扉を開いています。飛躍的に拡大しているスマートフォンの普及も大きな要因です。そこにクラウドコンピューティングを活用し常に最適な情報を提供できるIT技術も確立されています。

当社はその大きなチャンスを活かすことを事業活動の柱に据えることを決めています。その想いを
“車載情報機器メーカーから車両情報システムプロバイダーへ”
というメッセージに込めています。

車載情報機器メーカーから 車両情報システムプロバイダーへ

クラリオンを取り巻く市場環境は大きく変化しています。その激しく変化する市場環境へ対応し、クラリオンのビジネスモデルも迅速に適応・進化していきます。これまでのドメインであるナビ、オーディオ中心の車載機器メーカーから、ソフト・サービスビジネスを包含した「自動車向けクラウド情報ネットワークサービス」事業へ、安心・安全領域でのVisionシステム事業へ、とドメインを進化させてまいります。

お客さまが生活空間のなかで必要とする様々な情報共有やサービスを、ほしい時に最適化された方法で提供することで、安心・安全・快適で使いやすさをもっと実感できる、付加価値のある『つながる』製品、サービスを実現すること。

そして、クルマ、ヒト、環境を含めた情報を統合的にマネジメントし、それらをお客様一人ひとりに一番安全に、かつ快適な価値を提供すること。クラリオンはその総合的な情報マネジメントと最適化されたユーザーインターフェースを同時に開発し、つなぎ合わせることにより、独自の魅力ある顧客価値を提供してまいります。さらには、環境負荷低減につながるエネルギーマネジメントを含めた社会インフラ貢献まで、クラリオンは将来に無限に広がる変革を追求し続けます。

真のグローバル企業をめざして

クラリオンは、全世界を五つの地域に分け事業運営を進めています。それは、「日本」「北中南米（Americas）」「欧州」「中国」「ASEAN・インド」です。それぞれの地域が統括機能を持ち、傘下にマーケティング・開発・生産・販売の各機能を保有しています。今後は地域軸・顧客軸・商品軸についてそれぞれの機能を有機的に融合させることにより、全てのエリアにいち早く最適な商品やサービスを提供することをめざしています。日本の本社が主導するのでは無く、全てのエリアが責任と権限を持ち、且つ迅速に連携することで、より高度なグローバル経営体制を築いてまいります。

持続可能な社会をめざして

現在、地球が直面している最も重大な環境問題である温暖化の影響は年を追うごとに深刻さを増しています。急速な地球環境の変動に伴い、持続可能な循環型社会の実現に向け、環境問題への取り組みは企業の社会的責任として重要性を増し続けています。

クラリオンでは、この環境問題を経営課題として位置づけ、商品開発など企業活動全般にわたり環境経営を実践しています。また、日立グループの環境行動計画をベースとした、クラリオン独自の行動計画をグローバルに展開し、海外での環境経営も推進しています。当社がめざす「真に世の中から必要とされる企業」になるために、こうした環境への配慮や取り組みは企業の使命であると考えているからです。

ステークホルダーの皆様へ

お客様へ　社会の変化と技術の進化の中でお客様のニーズをいち早く察知し、先進的な機能を盛り込んだユニークな商品を提供してまいります。また、お客様に大きな満足と安心と喜びを感じていただけるような商品づくりに努めてまいります。

株主の皆様へ　クラリオンは、企業体質をより筋肉質の企業に変革することをめざしています。　更なる進展に向け、今後も高い目標へと挑戦し続けてまいります。

取引先の皆様へ　クラリオンはグループ一丸となって、車載情報機器に加え、「自動車向けクラウド情報ネットワークサービス」事業を経営の軸足と致します。市場環境の変化、グローバリゼーション、テクノロジーの進歩など、私たちを取り巻く環境が加速度的に変化するなか、いち早く動く体制を構築し日々行動していきます。クラリオンは常に考え、そして迅速に行動してまいります。

そして、新しいブランド標語である
“moves you・connects you”は、「Clarionは、音、情報、快適、安全をあなたとつなげることで、あなたを感動させます。」という想いです。

これらを約束し、皆様にご満足いただくためにも、ブランド価値向上を最重要課題として取り組んでまいります。皆様の目に映るClarionブランドが、より良いものになりますことをお誓い申し上げます。

moves you・connects you

（ブランド標語）
「Clarionは、音、情報、快適、安全をあなたとつなげることで、あなたを感動させます。」というClarionブランドが実現する価値を表現しています。

Mobile
Human Music Interface
Media

（シンボルマーク）
Clarionの基本思想を表現しています。

企業理念

基本理念　クラリオンは、音と情報と人間のより良きつながりを追求し、価値ある商品を生みだすことにより、豊かな社会づくりに寄与します。

経営姿勢
- 優れた製品とサービスを提供し、お客様に満足と喜びをおくる。
- 独自の発想と技術により、新たな価値を創造する。
- 個々の人間性と能力を尊重し、自由闊達な風土を作る。
- 人と社会と自然の調和を図り環境維持につとめる。
- 地域社会の発展のために、企業市民としての 責任を全うする。
- 適正な利潤の確保により、継続的な成長を果たす。

行動指針　私たちは、
- 常に勇気を持って自らを革新し、高い目標に“挑戦” します。
- 常に新しい価値を生みだす夢と感動を“創造”します。
- 常に人々の信頼に応えるために、“誠意”を尽くします。

企業ビジョン

移動空間における音と情報通信のつながりを独自の発想と先進技術で、新たな領域まで進化させます。そして世界中のお客様へ安心・安全・快適・感動を提供していきます。
私たちは業界の先端を走り続け、市場ニーズを的確に捉え将来にわたる成長をめざします。

会社概況

「クラリオンは、音と情報と人間のより良きつながりを追求し、
価値ある商品を生み出すことにより、
豊かな社会作りに寄与します。」（『基本理念』より）

CONTENTS

● 会社概況
- 概要／財務ハイライト … P04
- グローバルネットワーク … P05
- ビジネス・アウトライン … P07
- アドバンスド・テクノロジー … P09
- 品質管理 … P13
- 沿革 … P15
- コミュニケーション活動 … P17
- We are Clarion … P19

● CSRレポート
- CSRレポート … P21
- 環境レポート … P35

Clarion概要

会社概要（2012年3月31日現在）

商　号	クラリオン株式会社 Clarion Co., Ltd.
本社・ 技術センター	〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心7-2 電話048(601)3700
本社事務所	〒330-6030 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2 電話048(601)3700
設立年月日	1940年12月18日
資 本 金	26,100百万円
発行済株式総数	282,744千株
売 上 高	連結 186,711百万円（2012年3月期） 単独 135,974百万円（2012年3月期）
従業員数	連結 9,975名 単独 1,547名（※出向者は除く）
主要製品	自動車向けクラウド情報ネットワークサービス、 カーナビゲーション、カーオーディオ、車載用カメラ、 映像機器、バス機器、通信機器

役　員（2012年6月22日現在）

取締役社長	泉 龍彦
専務取締役	吉峰 徹郎
常務取締役	金子 徹
常務取締役	川本 英利
取締役	河元 哲史
取締役	和田 直士
取締役	本田 恭彦
取締役	篠崎 雅継
常勤監査役	笠井 成志
監査役	藤村 一路
監査役	笹井 保大
監査役	栗原 和男

＊取締役 本田恭彦および篠崎雅継の各氏は、社外取締役であります。
＊監査役 笹井保大および栗原和男の各氏は、社外監査役であります。

主要取引金融機関

りそな銀行
みずほコーポレート銀行
三井住友銀行
三菱東京UFJ銀行

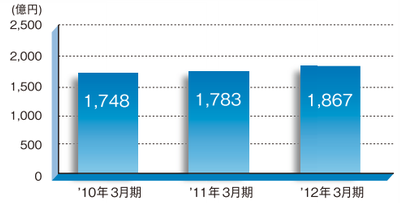
加盟団体

日本自動車車体工業会

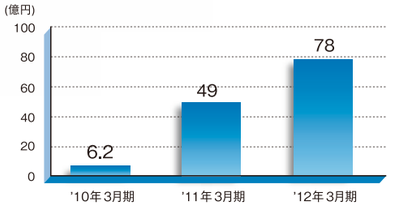
財務ハイライト

財務ハイライト（連結）

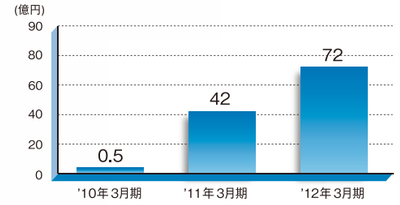
■ 連結売上高



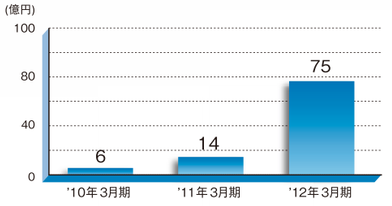
■ 連結営業利益



■ 連結経常利益

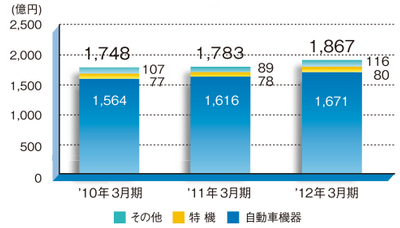


■ 連結当期純利益

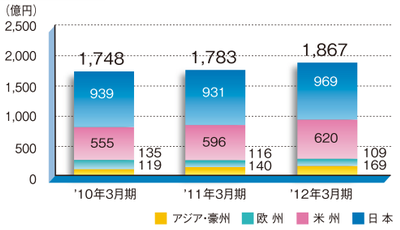


売上高内訳（連結）

■ 商品事業別



■ 地域別



Global Network　世界を網羅しながら地域性を深める、独自のグローバルネットワーク

クラリオンは、クラウドコンピューティングなどの通信インフラの急速な発展を背景に、車載情報機器メーカーから車両情報システムプロバイダーへの変革をめざして、独自のグローバル戦略を展開しています。それぞれの地域が統括機能を持ちながら、地域・顧客・商品を軸にしてマーケットをカバーするこの高度なサプライチェーンは、世界中のお客様に最適な商品やサービスをタイムリーに提供することが可能です。これからも積極的な組織再編と継続的な改革を進め、「Clarion」ブランドを、世界そして各地域のマーケットへ確実に浸透させていきます。

クラリオン本社・技術センター

ヨーロッパ エリア

- Clarion Europe S.A.S. (CEF)
- Clarion Europa G.m.b.H. (CED)
- Clarion (G.B.) Ltd. (CGB)
- Clarion Hungary Electronics Kft. (CHE)

CED

CXEE（Xiamen Office 開発）

CXEE（Xiamen Office 生産）

CGB

DDCE

DCOE (Shanghai Office)

CHE

DCOE
(Changchun Office)

DCOE
(Beijin Office)

CMS

CT

CSM

CEF
(Paris Office)

CEF (Nancy Office)

CTC

CT(浜松営業所)

CT(名古屋営業所)

CT(大阪営業所)

CT(広島営業所)

DCOE(Dongguan Office)

CHI(HongKong Office)

CAT

CAP

CM/CPM

- 販売会社
- 生産会社
- 開発会社
- クラリオン本社拠点
- 関係会社
- 販売代理店

アメリカ エリア

- Clarion Corporation of America (CCA)
- Clarion Canada Inc. (CCI)
- Electronica Clarion, S.A. de C.V. (ELECLA)
- Ultra Industrial S.A de C.V. (ULTRA)
- Clarion do Brasil Ltda. (CBL)

CCA (Michigan Office)

CCI

CCA (Cypress Office)

CCA (Ohio Office)

CCA
(Tennessee Office)

CCA
(Texas Office)

CCA (Kentucky Office)

ELE CLA
(Mexico City Office)

ELECLA (San Juan Del Rio Office)

CCA
(Miami Office)

CBL

国　内

- クラリオン株式会社 (CT)
- クラリオンセールスアンドマーケティング株式会社 (CSM)
- クラリオンマニュファクチャリングアンドサービス株式会社 (CMS)

アジア／オセアニア エリア

- Clarion (H.K.) Industries Co., Ltd. (CHI)
- Dongguan Dongkeng Clarion Electronics Factory (DDCE)
- Dongguan Clarion Orient Electronics Co., Ltd. (DCOE)
- Xiamen Clarion Electrical Enterprise Co., Ltd. (CXEE)
- Clarion (Malaysia) Sdn., Bhd. (CM)
- Crystal Precision (Malaysia) Sdn., Bhd. (CPM)
- Clarion Asia (Thailand) Co., Ltd. (CAT)
- Clarion (Taiwan) Manufacturing Co., Ltd. (CTC)
- Clarion Australia Pty. Ltd. (CAP)

Business Outline

車載分野をリードする次世代プロダクト

昨今の目覚ましいIT技術の進化とスマートフォンの普及は、自動車業界にも大きな影響を与えており、ユーザーは車室内であっても自在に「外とつながる」ことで大量かつ多様な情報やサービスを得ることが可能になっています。このような市場環境において、クラリオンは中期スローガンとして“車載情報機器メーカーから車両情報システムプロバイダーへ”を掲げ、インターネット情報、カメラ画像情報、センサー情報、車両制御情報などを総合的にマネジメントし、当社ならではの新たな顧客価値を提供する企業をめざします。“車両情報システムプロバイダー”への変革にあたり、クラリオンは、2012年度より新たなブランド標語“moves you・connects you”をグローバルに発信します。これは、「クラリオンは、音、情報、快適、安全をあなたとつなげることで、あなたを感動させます」という、Clarionブランドからの想いを表現しています。

IVI（In-Vehicle Infotainment）システム／自動車向けクラウド情報ネットワークサービス

クラリオンは2012年6月から、スマートフォンの膨大なアプリケーションを車向けに活用する「スマートフォン連携」を基本機能とする、自動車向けクラウド情報ネットワークサービス「Smart Access」を開始しました。当社の最新AVナビゲーションは、「Smart Access」に対応。インターネットラジオ受信アプリ、ニュースアプリ、SNSアプリが、車での利用に最適化されたインターフェースで使用できます。また、iPhone連携に特化した革新的な車載インテリジェントコントローラー「Next GATE」も市場投入。「Smart Access」による多彩なアプリケーションと容易な装着性で、iPhoneユーザーに快適なドライビングライフをもたらします。クラリオンは、グローバル単位での「Smart Access」サービス拡大と、それに対応した車載端末の継続的な投入により、世界中のユーザーに新たな価値を提供していきます。

車載オーディオシステム

クラリオンは、長年にわたりオーディオ技術・音響技術を磨き上げ、車室内での最適な音響環境を追求しています。携帯音楽プレーヤーやスマートフォンとのシームレスな連携はもちろん、不要な音の反射や吸収の多い車室内であってもオーディオルームのような理想的な音場を実現する独自音響技術は、クラリオンのオーディオシステムの大きな強みといえます。さらに、エコとプレミアムサウンドを両立する「フルデジタルスピーカー」を車載用として世界で初めて開発。この技術により、次世代エコカーに最適な車載オーディオシステムの製品化を促進します。

安全運転支援システム（Vision System）

近年、ドライバーに安心・安全を提供する車載カメラへのニーズは高まる一方です。特に米国における後方視界支援に関する法制化により、車載カメラ市場は今後爆発的に拡大するとみられています。以前から車載カメラを手がけてきたクラリオンは、この需要拡大に合わせ、車載カメラの開発を加速。次世代のVision Systemとして、さらなる高性能化、高機能化に注力しています。クラリオンは、今後も先端技術の開発に積極的に取り組み、安全な運転を支援するVision Systemの普及につとめます。

業務用車載システム

業務用車載システムではトップシェアを誇るクラリオン。車載カメラを用いた安全確認システムは、カーナビゲーションとの連動による安全運転サポートだけでなく、「フラッシュメモリドライブレコーダー」との連動による事故の原因分析や安全運転指導など、多くの利用シーンで活躍しています。また、耐久性と拡張性を誇る業務用ナビゲーションシステムは、通信によるカスタマイズや機能拡張で様々な業務をサポートします。

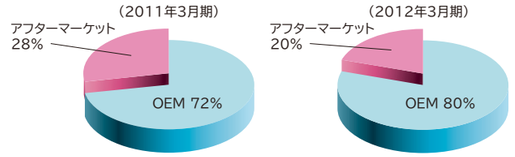
● iPod、iPhoneおよびiTunesは米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。

グローバル市場で高い実績を誇るOEMビジネス展開

卓越した技術力とフレキシビリティの高い生産体制で、クラリオンはグローバル市場から高い評価を得ており、純正機器を納入するOEM※では世界の主要自動車メーカーと長期にわたり確かな信頼関係を築いています。当社のOEM分野におけるビジネス展開は、1951年の日野ルノー向け純正ラジオ納入を皮切りに始まりました。現在では世界中へ多彩な車載機器を納入しており、当社のビジネスの大きな柱とも言えます。今後、先進国ではハイブリッド車や電気自動車等の普及に伴い、車載機器のさらなる進化が求められます。一方、急成長する新興国市場では各地域ニーズに合致した製品が求められます。目まぐるしく変わる車載機市場において、クラリオンは長年培ってきた車載適合技術と顧客ニーズを先取りする提案力により、OEMビジネスのグローバル規模でのさらなる拡大をめざしています。

※OEM: Original Equipment Manufacturing（相手先ブランド生産）

■ 仕向け別売上比率



アフターマーケット: 市販+OPTION

主要お取引先

カーナビゲーションとテレマティクスユニットで、電気自動車をサポート

2010年に日産自動車が日本・米国・欧州で発売した電気自動車（EV）“リーフ”の全車両に、当社のカーナビゲーションが標準搭載されています。これは、従来のナビ機能に加え充電状態に応じた到達予想エリアの表示、充電促進案内、容易な充電スポット検索、電力消費状況表示といった、ドライバーが安心してEVに乗るための専用機能を多数装備した世界初のEV専用ナビシステムです。また、テレマティクスを活用したエアコンの遠隔操作、車外からの充電状態確認、プローブ情報送信等の機能を実現するためにデータセンターと通信し信号を処理するテレマティクスユニットも、当社が開発し供給しています※。

※テレマティクスユニットの供給は日本仕向のみ

電気自動車専用ナビゲーション

到達予想エリア表示　充電スポット検索　テレマティクスユニット　電力消費状況表示　タイマー充電

2011年度 日産自動車から「イノベーション賞」を受賞
2011年度 ジェイ・バスから「品質改善賞」を受賞
2011年度 日野自動車から「品質管理 優秀賞」を受賞
2011年度 フォードから「Ford Q1アワード」を東北事業所が受賞

Advanced Technology　人・クルマ・環境の未来のために、次代を支える技術開発力

世界規模で拡大するインターネットの大きな進化とスマートフォンの普及により、自動車にもネット接続による新しい利便性・機能や魅力を継続的に提供することが求められています。クラリオンはグローバル市場の未来を見据え、車載情報システムの魅力をより一層高めるため、“つながる”付加価値を提供する自動車向けクラウド情報ネットワークサービス“Smart Access”を構築。“車両情報システムプロバイダー”として、カーメーカーOEMや市販商品を通じて新たな車載機器ラインアップを展開していきます。

自動車向けクラウド情報ネットワークサービスの未来を担う、大いなる可能性を秘めた「Smart Access」

クラリオンは日立グループとの連携により、ドライバーの快適・安心・便利なドライブの提供を目的に、自動車向けクラウド情報ネットワークサービス「Smart Access」(スマート アクセス)を開発し、「車両情報システムプロバイダー」としての第一歩を踏み出しました。

「Smart Access」は、スマートフォンの膨大なアプリケーションを車内けに活用する「スマートフォン連携」、車を見守る「VRM(Vehicle Relational Management System)サービス」、お客様を見守る「CRM(Customer Relational Management System)サービス」、緊急通報「E コール」など、未来の幅広いニーズと可能性に対応するために設計されており、クラリオンの自社運用のみならず、カーメーカーの情報ネットワークサービスとしてもスムーズに機能できるのが特徴です。

また、多彩な車向けアプリケーションを継続的に提供するため、各分野に強みを持つ複数のパートナーとの協調・連携によるコンテンツ企画・開発も進めており、さらに他メーカー製の車載機にも対応するインターフェイスの公開も準備しています。今後クラリオンが発売する車載機は、「Smart Access」との「接続インターフェイス」を装備し、「Smart Access」のプラットフォームを経由して、アプリ・コンテンツの追加やアップデートを可能にし、製品購入後もユーザーに新たな付加価値を提供し続けます。

Smart Access

車室空間へ継続的な価値を提供しカーライフを進化させる「Next GATE」

iPhone®用のスマートフォンコントローラー「Next GATE」は、iPhoneを介して車の中で常に情報とつながることを可能にする、従来の車載機器とは一線を画す先駆的なデバイスです。「Next GATE」は、iPhoneに搭載されたアプリケーションを利用できるほか、iPhoneからさまざまな情報へ直感的かつ安全にアクセスすることが可能になります。

「Next GATE」の大きなアドバンテージは、手軽な操作性、簡単な接続性、卓越した機能性を備えていることはもちろん、これらの機能を継続的に拡充することができる点にあります。クラリオンが提供する自動車向けクラウド情報ネットワークサービス「Smart Access」との連携により、iPhoneへアプリケーションをダウンロードし、Bluetooth®によるハンズフリー通話や、iPhoneのボイスダイヤル、音声認識機能など、カーライフの利便性や快適性、そして安全性をさらに広げ高めることが可能です。

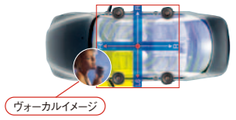
クラリオンは現在、個性ある多彩なアプリケーション開発パートナーと共に「Next GATE」の機能性拡大に取り組んでおり、将来的にはさらに多くのパートナーが参加する予定です。「Next GATE」は「Smart Access」につながることにより、先進の機能を、車種を問わず幅広いドライバーに提供します。

NeXt GATE

独自音響信号処理技術「Intelligent Tune」の製品化

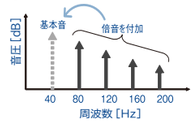
近年、クラリオンはDSP(Digital Signal Processor)での音響信号処理技術による、音質や利便性の向上に力を入れています。この当社独自の音響信号処理技術「Intelligent Tune」で、車特有の劣悪な環境でも、最良のサウンドを実現することが可能になります。音源のセンター成分を抽出し定位制御することで目の前にヴォーカルの存在を感じることができる「ヴォーカルイメージコントロール」、音源の基本音に対し倍音を付加することで低域の増強が体感できる「バーチャルバス」、圧縮音源の失われた高域を復元し原音に限りなく近いサウンドクオリティを実現する「サウンドリストアラー」、オーディオソース切り替え時の急激な音量変化を抑え、常に最適な音量をキープする「ボリュームスムーサー」が当社の最新製品に搭載されています。

● ヴォーカルイメージコントロール



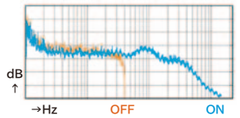
ヴォーカルイメージを制御し
リスナーの目の前に移動

● バーチャルバス



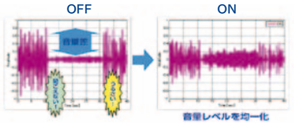
倍音の付加によって
低域の増強を体感

● サウンドリストアラー



圧縮音源の失われた
高域を復元

● ボリュームスムーサー



オーディオソース
切り替え時の音量変化を抑制

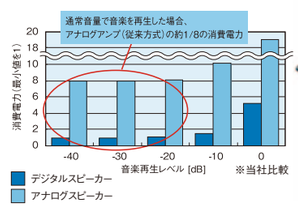
Intelligent Tune　〈インテリジェントチューン〉とは、車特有の劣悪な環境でも、最良のサウンドを実現するために開発された、クラリオン独自の音響技術です。

世界初 車載用フルデジタルスピーカーの開発

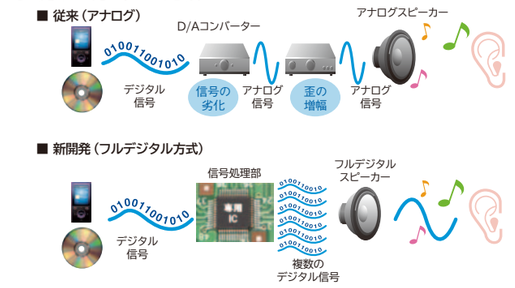
クラリオンは、エコとプレミアムサウンドを両立する全く新たな車載オーディオシステムを実現するため、フルデジタルスピーカーを車載用として世界で初めて開発しました。この技術は、デジタル信号処理技術「Dnote」※1と当社が培ってきた車載音響技術を融合し開発したもので、CDや携帯音楽プレーヤーのデジタル音声信号を直接スピーカーに入力し再生することで、音源の持つ情報を余すことなく表現し、ハイクオリティなサウンド再生を可能にします。また、駆動電圧を従来の半分以下、消費電力を約1/8※2に抑えるなど大幅な省電力を実現します。当社は、車載での用途を想定した専用IC、専用スピーカーユニット、デジタル信号伝送技術などの開発を進め、次世代エコカーに最適な車載オーディオシステムの製品化を促進します。

※1 Dnote: 株式会社Trigence Semiconductorの登録商標で、デジタル・オーディオ信号を変調し、複数のスピーカーユニットまたはボイスコイルに直接入力することで、音声を再生させる技術です。
※2 消費電力を約1/8:当社比較

● 音楽再生時の消費電力比較



● 従来の方式との比較

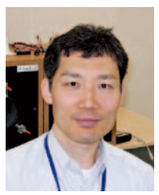


We are Clarion

AV コア開発部
高田 直樹

“クラリオンサウンド”の、次世代へ向けたステップアップに貢献

AVコア開発部音響・スピーカー開発Gは、音響技術の先行開発から車両の音づくり、スピーカーの開発まで音づくり全体を開発する役割を担っています。フルデジタルスピーカーの開発においては、デジタル信号による駆動方式に最適化した専用スピーカーの技術開発を担当しています。この技術が持つ潜在的な能力をどのように生かしきるか、プロジェクトメンバーと一丸になって考え、次世代の“クラリオンサウンド”を実現したいと思います。



AV コア開発部
黒本 晋一

他社に先駆け、いち早く製品化をめざす

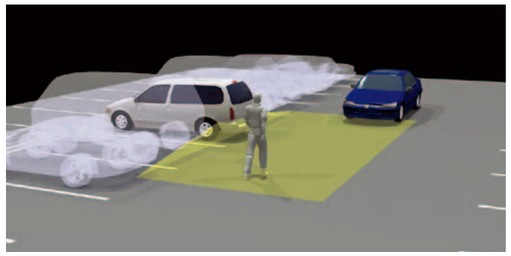
AVコア開発部の一員として、デジタル音響処理技術の先行開発を担当しています。フルデジタルスピーカーの開発では、このシステム専用の車載カスタムICの開発をおこなっています。他には無い、クラリオンオリジナルの製品を世の中に送り出せるチャンスなので、やりがいを感じながら取り組んでいます。

卓越したテクノロジーが創造する、クルマ社会の新しいかたち

高度化するVision System(カメラ応用商品群)

クラリオンでは、安全かつ安心して暮らせるクルマ社会の実現に向け、画像処理・画像認識技術を応用して駐車や走行を助けるVision Systemの開発に取り組んでいます。車両の周辺情報を表示する全周囲俯瞰映像(OVM : Overhead View Monitor)、カメラを用いて接近する歩行者や車両を検知するセンシング機能開発がその中心です。さらに、Vision Systemの根幹となるカメラの商品力強化にも力を注いでいます。超広角レンズによる視野の拡大、夜間や強い逆光のある厳しい光(ひかり)環境で自然な映像を提供するロジック開発や、受光素子の応用によって、正確でより多くの映像情報をVision Systemへ送り、その信頼性を向上させていきます。

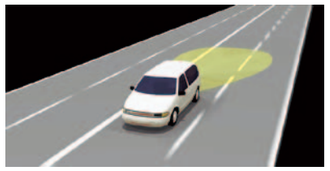
● リアカメラの画像認識機能を使った車両／歩行者検知



超広角レンズを使った
接近歩行者検知

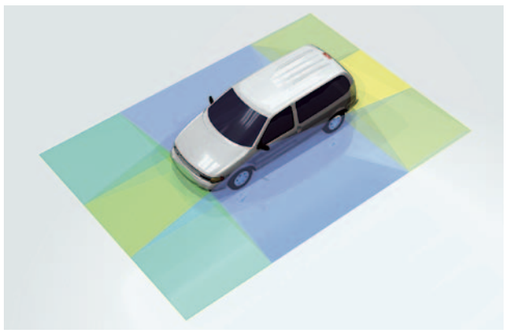
当社のOVMシステムは、超広角レンズを採用しているため、通常のリアカメラよりも広い範囲を表示することが可能。画像認識技術を応用して、左右方向からの障害物を検知し、バック運転を支援します。

● リアカメラの画像認識機能を使った車線検知



リアカメラは、バック運転以外にも活用可能です。画像認識技術で車線を検知し、ドライバーへ車線逸脱警告を発します。

● 全周囲俯瞰映像 (OVM : Overhead View Monitor)

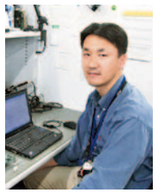


半透過映像表示例
(左側のドアを半透過表示)

全周囲俯瞰映像表示例
(全周囲映像とリアカメラ映像)

当社の最新のOVMシステムは、ドライバーに対して自車(自分のクルマ)周辺の視界補助を提供するだけでなく、画像認識技術との組み合わせによってあらゆる方向からの障害物を検知し、ドライバーへ警報を発することが可能です。

We are Clarion



カメラシステム開発部
秦野 素温

カメラシステム開発部で、OVMシステムのプラットフォーム開発を担当しています。画像処理技術に画像認識技術をプラスし、運転支援機能を充実させた、高級車向けの仕様になっています。開発当初は、画像処理専用のIC開発と原理試作を同時に行い、無事に完了させることが大変でした。また、次の世代でも使えるよう、冗長設計をしているため、性能と品質を確保することが大変でした。顧客スペックを満足させるための技術検討を何度も重ね、品質確認のOK判定が出た瞬間が、開発に携わった嬉しさと達成感を感じる時です。

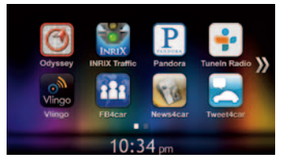
カメラシステム開発部
入江 耕太

カメラシステム開発部では、車載カメラに関連する先行的な技術開発から、量産設計までを行っています。私が担当する業務は、自車に接近してくる歩行者や車などを認識して警報するといった、安全運転支援のための画像認識ソフトの開発です。様々な走行環境で発生する課題を一つひとつクリアしていくことは大変ですが、自分が携わったモノが製品化され、雑誌記事やカタログに載ったときは、大きな達成感と喜びを感じます。

新しい世界とつながる入口になる、車載機器を一新する革新的UI(ユーザーインターフェース)

走行中のドライバーの自由度を高めながら安全性を確保する。高度な情報にリアルタイムでアクセスする。車載機器分野で培ってきた豊富なノウハウ、既成概念に捉われない新たな視点が、人と機器のまったく新しいつながりを創造。新しい世界への入口にふさわしい革新的なUI(ユーザーインターフェース)により、次世代の車載情報システムは加速度的に進化していきます。

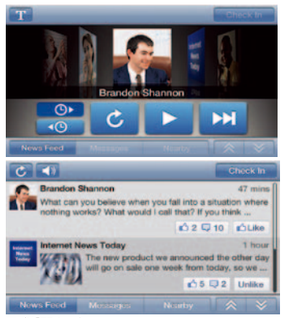
● アプリ例



アプリ「Smart Access」:
車載トップ画面

「Smart Access」でのiPhone※連携対応アプリはTuneIn Radio※といった3rd Party製アプリだけでなく、自社開発アプリも取りそろえています。それらは、今まで車載機器向け開発で培ってきた安心・安全のUI(ユーザーインタフェース)ノウハウ(ボタンの大きさ、文字のサイズ、コントラストのとれた配色、階層構造)を元にしています。

● Facebook※クライアントアプリ「FB4car」



アプリ「FB4car」:
車載側TTS画面

アプリ「FB4car」:
車載側テキスト表示画面

アプリ「FB4car」:
スマートフォンでのテキスト表示画面

スマートフォン単体で使用する場合も、車載連携して使う場合も、迷わず使えることを念頭に開発しています。また、車載連携時は、走行中でも情報が得られるよう、テキスト読み上げ機能(TTS:Text-To-Speech)が備わっています(北米向けモデル)。このTTS画面も、「使ってみたい」と思わせるUIを心がけています。

「Smart Access」でのスマートフォン連携対応機種は、Next GATE、NX712/NX612を皮切りに続々発売予定です。

Next GATE

NX712/NX612

※ 当資料に記載する社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

地球環境を考える エコドライブの実現

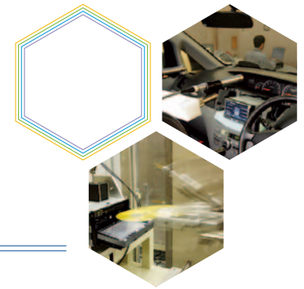
クラリオンは、地球にやさしい走りをアシストする技術・製品づくり「グリーン・ナビゲーション」コンセプトを推進し、より少ない燃料で走れるルートを予測走行パターンや地形情報などから探し出す「省エネルート探索」や、「エコ運転アドバイス」などの機能を開発しました。これらは排出CO_2の削減やガソリン代の節約にもつながる、地球とドライバーにやさしい機能です。今後はハイブリッド車や電気自動車の普及が見込まれます。こうした次世代のエコカーにも対応すべく、クラリオンではエコドライブの開発を継続していきます。

● 省エネルート探索

あらゆる条件を考慮して省エネルートを探索

◎ アクセルワークが頻繁になるような高低差があるか
◎ 渋滞していないか
◎ 目的地までの距離は短いか　等

例えば…
① 高 速 道 路 ： 目的地まで早く着くが遠回り、かつ渋滞していて時間がかかる。
② 一般道・山道： 直線距離は短いが高低差があり、アクセルのオン/オフが頻繁。
③ 一　般　道 ： 少しだけ遠回りだが、平坦な道のためアクセルのオン/オフが少なく、渋滞もないので早く着く。

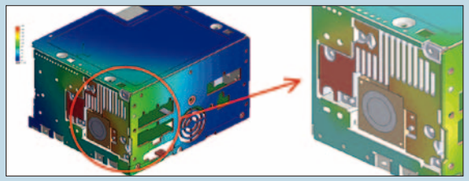


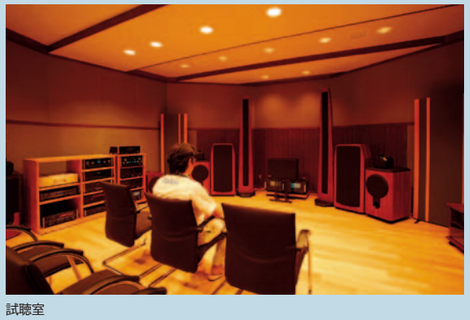
Quality Control

変わりゆく時代に揺るぎない信頼を築く、妥協なき品質の追求

過酷な車載環境での使用に耐える、万全の品質評価体制

クラリオンが手掛ける車載機器は、熱帯から極寒地、砂漠地域から湿度100%の多雨地域まで、世界のさまざまな気候や環境で安定した性能を発揮しなければなりません。クラリオンでは、自社市販製品はもちろん、OEM市場においても、常にお客様のベストパートナーとして確かな品質を提供し続けるために、厳しい品質評価体制づくりに取り組み続けています。CADシステムによる精密なシミュレーション設計、試作評価、設計審査、試作品の品質試験など、「Clarion」ブランドの基準を満たすレベルに達するまで、今日も想像を超える過酷なテストと妥協なき品質評価が繰り返され、商品はお客様の手元へと届けられるのです。


CAE(Computer Aided Engineering)による熱伝導解析


試聴室

電波暗室

音場解析実験

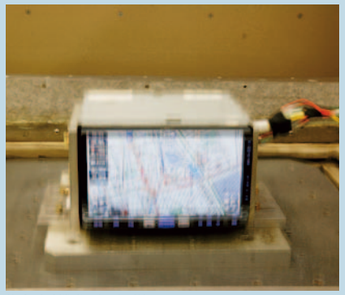
ラトルノイズ評価装置

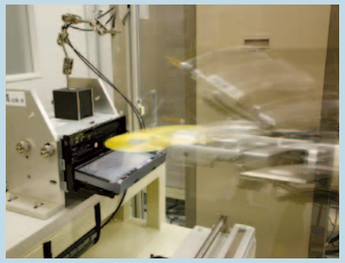
カーシールド

世界市場に認められる、生産システムと品質管理体制の確立

クラリオンでは、製品の動作確認用の検査機器のプログラミングをはじめ、凝縮した回路や小型化した部品の実装状態を調べるため、高精細カメラやX線機器を積極的に導入。生産ラインでは、国内から海外まで統一されたチェックオペレーションが採用され、世界のどのクラリオン工場でも同様の品質が保たれる体制が整備されています。

また、クラリオンはOEMお取引先の要求にお応えする確かな品質保証体制を整備しています。その一環として、ISO9001を母体とした自動車業界固有の品質システムである国際規格ISO/TS16949を、すべてのクラリオングループ生産会社が認証を取得しています。2011年7月に発行された自動車に関する安全規格であるISO26262についても社内でプロジェクトを組み、体制構築を推進しています。このように、各プロセスを有機的に機能させ、品質マネジメントシステムとして適切に維持することで、お客様に安心・安全・快適な技術と品質を提供しています。

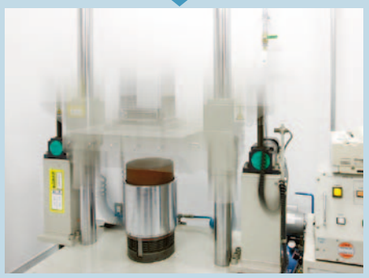

複合試験機（温度+振動）


自動繰り返し耐久試験機

塵埃試験機

サーマルショック試験機

防水試験機


落下衝撃試験機

生産ライン（実装）

パレット検査ライン

Topics

生産体制紹介「タイ工場竣工」

クラリオンはワールドワイドな受注体制を整えるため、ASEAN地域の体制再編を行っております。タイに工場を建設し、部品調達から生産、納入までをタイムリーかつスムーズにおこなうようにすることで、世界中のお客様へ商品をお届けするための供給能力を強化しました。

タイ工場は、自動車メーカー向けのカーオーディオ・カーナビゲーション・カメラの生産、販売を目的として2012年4月本格量産開始（初年度約60万台）。2016年には200万台／年規模の生産体制をめざします。

開発体制紹介「中国における開発機能の強化―生産拠点から、グローバル開発拠点へ」

クラリオンは、新興国市場の成長を見据え、グローバル体制の強化と再編を進めています。新興国の中でも特に成長著しい中国市場での事業拡大と、グローバルで戦えるコスト競争力確保のため、開発や購買などの機能を順次中国へ移管しています。現在、中国の生産拠点は、当社全生産量の約73%を生産しており、生産機能の中核を担っていますが、今後は福建省廈門市にある開発拠点を大幅に強化し、開発コストの削減と、地域ニーズに合致した開発を実現する、グローバル開発センターを新たに構築しました。

福建省廈門市にある開発センター

History of Clarion

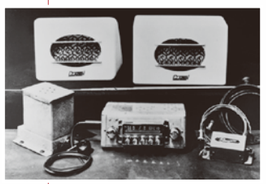
車載分野のフロントランナーから新時代の挑戦者 へ、次の未来を描き続ける

クラリオンは自動車産業の歴史とともに歩んできたといっても過言ではありません。日本初のカーラジオ、そして、日本初のカーステレオの発売など、車載機器の黎明期から業界のフロントランナーとして常に時代をリードし続けてきました。その企業スタンスは、ドライバーのニーズをしっかりと受け止めて確かな技術で応えること、さらに、豊かな創造力で常にユニークな製品を提案すること。カーラジオからカーAV、カーナビゲーションの時代を経て、車載情報機器分野は大きな可能性を持った変換期を迎えています。そして今、クラリオンは、車載情報機器メーカーから、「車両情報システムプロバイダー」へと進化していきます。

1940's – 1990's

1940

1940年 12月／東京都文京区白山前町 21 番地に白山無線電機株式会社を設立、電池式家庭用ラジオの製造を開始。資本金 18 万円
1943年 11月／瀧澤無線電機工業（株）を合併、帝国電波（株）と改称。



1948 日本初
カーラジオ・バス用
拡声装置を開発、発売

1950

1951 日本初
クラリオン初の純正ラジオ
日野ルノー「ル・パリジャン」発売

1951年 2月／日本初のカーラジオを開発し、発売。
1958年 6月／カーラジオのアメリカ向け輸出に成功、今日のカーオーディオ輸出の基盤を築く。
1959年 5月／カーラジオが日産自動車より純正部品指定を受ける。

1960

1962年 8月／東京証券取引所市場第二部に株式上場。

1963 日本初
カーステレオを開発、翌年発売

1963年 10月／日本初のカーステレオを開発、翌年8 月販売を開始。
1967年 9月／埼玉県戸田市に埼玉事業所を新設。
1968年 3月／日本初のカセットカーステレオを発売。
1969年 8月／大阪証券取引所市場第二部に株式上場。

1968 日本初
カセットカーステレオ発売

1970

1970年 2月／東京証券取引所・大阪証券取引所市場第二部より第一部に上場指定替。
1970年 4月／東京都渋谷区道玄坂に本社事務所を設置。
1970年 12月／商号をクラリオン（株）に改称。
1970年 12月／マレーシアに合弁で初の海外工場（CM）設立。
1975年 6月／クラリオンガールをスタートさせる。アグネス・ラムが初代グランプリに。
1976年 8月／業務用カラオケ「カラオケ 8」及びカセット編集デッキ「ダビングX」を発売。
1978年 10月／福島県郡山市に東北事業所を設置。

1980

1980年 11月／東京都渋谷区渋谷に本社事務所を移転。

1981
カーステレオ
「City Connection」発売

1983年 7月／フランス工場(CEF)設立。
1983年 11月／群馬県邑楽郡に群馬事業所設立。／メキシコに生産会社(ELECLA) を設立。
1987年 7月／カー CD CD5000発売。
1989年 10月／フィリピンに生産会社(CMCP) を設立。

1990

1992年 2月／日本初の音声誘導式ナビゲーションシステム NAC-200 発売。

1992 日本初
音声誘導式ナビゲーションシステム
（マップナレーションシステム）
「NAC-200」発売

1993 日本初
ハイブリッドナビゲーション
システム「NAX-700」発売

1990

1993年 4月／SS 無線モデム技術基準適合証明を国内ではじめて取得。同時にモデムの発売。
1995年 1月／香港管理会社(CHI) 設立。
1995年 3月／クラリオン全事業所で ISO9001取得。
1995年 4月／中国に生産会社(DCOE)設立。

1995 市販初
2DIN CD/カセット
一体機「ADX8155」発売

1996年 5月／ VICS 対応カーナビ発売。

1996
1DINタイプ CD/DSPコントロール、TV/AM/FMチューナー付5型 LCDアンプ「VRX8250」発売

1996
高性能・高音質CDセンターユニット
「DRX9255」発売

1997年 4月／浜松営業所設立。
1997年 10月／ハンガリーに生産会社(CHE)を設立。
1998年 1月／米マイクロソフト社と車載用パソコン「Clarion AutoPC」を共同開発。
1998年 12月／世界ではじめて「Clarion AutoPC」を、アメリカにて販売開始。

1998 世界初
米マイクロソフト社と車載コンピュータ「AutoPC」を共同開発世界で初めて「Clarion AutoPC™」を米国で発売

1999年 8月／ ETC（自動料金収受システム）を日立製作所と共同開発。
1999年 12月／仏シトロエンに「AutoPC」をOEM 供給開始。

2000's – 2012

2000

2000年 3月／クラリオン販売（株）設立。
2000年 4月／ ISO14001 国内 5 事業所にて取得。
2000年 12月／日立製作所、クラリオン、ザナヴィ・インフォマティクスの 3 社で合弁会社の（株）HCX 社を設立。

2001

2001年 5月／東京都文京区白山に本社事務所を移転。
2001年 8月／クラリオンスカラーシップ MEDAMA をスタートさせる。
2001年 10月／有料道路自動料金収受システム(ETC) 用の車載器を発売。
2001年 11月／東京モーターショーにAutoPC CADIAS（カディアス）を出展。

2002

2002年 3月／北米向け衛星ラジオ受信機を発売。
2002年 9月／埼玉県戸田市に本社事務所を移転。
2002年 10月／クラリオン東北製造にクラリオン自機生産部、クラリオンロジスティクスを統合し、社名をクラリオン・エム・アンド・エル（株）に変更。
2002年 12月／日本初の車載コンピュータ「AutoPC CADIAS」発売。

2002 日本初
車載PC「AutoPC CADIAS™」発売
OSにWindows CE for Automotive採用
通信方式ナビ「Access Navi」採用

2003

2003年 2月／世界初、後方確認用俯瞰カメラシステム（真上から見た映像を表示）を日産自動車向けに納入
2003年 6月／ HDD（ハードディスクドライブ）搭載 AV ナビゲーションシステムを発売。
2003年 8月／中国・上海GM社へCDカーオーディオを納入開始。
2003年 10月／日産情報サービス「カーウイングス」に対応した、HDD 搭載 AV ナビゲーションを発売。

2004

2004年 2月／業務用車両用として世界初の Linux と Java™ J2ME CDC を搭載した車載用情報端末を発売。

2004 世界初
業務用車両用として世界初のLinuxとJava™ J2ME CDCを搭載した車載用情報端末を発売

2004年 6月／市販 2DIN サイズとして業界初となる 7 型モニターおよびHDD 搭載 AV ナビゲーションを発売。
2004年 7月／業界初、路線バス向け停留所名表示器用FM文字多重放送チューナーを発売。

2005

2005年 1月／業界初、モニター画面上の仮想 iPod®で、iPod本体操作可能なAVセンターユニットを北米で発売。

2005 業界初
iPodフルコントロール機能搭載
1DIN AVセンター ユニット
「VRX755VD」発売

2005年 3月／ボルシェ・ジャパン全車種へ AV ナビゲーションを展開。
2005年 5月／業界初、国内向けに iPod 対応 AV 一体型 HDD ナビゲーションを発売。

2006

2006年 6月／中国、北米の市販市場にカーナビゲーションを初投入。
2006年 7月／全国の観光地を動画で紹介する国内最大規模の旅・ドライブ情報サイト「Movieum」オープン。
2006年 12月／（株）日立製作所が親会社となる。

2007

2007年 1月／（株）ザナヴィ・インフォマティクスを100% 子会社とする。
2007年 1月／トヨタ車にカーオーディオを初めて納入（ダイハツ受託生産車）。
2007年 4月／パスロケ ASPサービスを開始。
2007年 4月／クラリオン・エム・アンド・エル（株）からクラリオン（株）の生産管理/生産技術の機能移管を受け、社名をクラリオン製造プロテック（株）に変更。
2007年 7月／業務用車両向けカーナビゲーション「Solid Navi」（CQ-8000）を開発し、販売を開始。

2007 世界初
業務用SDDナビゲーション
「Solid Navi」発売

2007年 8月／本社事務所をさいたま新都心へ移転し、名称を「本社事務所・技術センター」に変更。
2007年 12月／ DVD ワイド 7 型 AV センターユニット「VRX935VD」と 6 ディスク DVD チェンジャー「VCZ625」（米国モデル）が NASA、国際宇宙ステーション（ISS:International Space Station）に採用される。

2008

2008年6月／ハイクラス HDD ナビ「CRASVIA」シリーズ、メモリータイプ SDD ナビ「Smoonavi」シリーズを発売。

2008
地上デジタルTVチューナーBluetooth®
内蔵ワイド7型 VGA 2DIN /DVD/
HDD AV-Naviシステム
「CRASVIA（NX808）」発売

2008

2008年 11月／携帯通信端末 Clarion MiNDを北米で発売。

2008
携帯通信端末「Clarion MiND™」
を北米で発売

2009

2009年 4月／ 100%子会社の（株）ザナヴィ・インフォマティクスを吸収合併。
2009年 4月／クラリオン販売（株）をクラリオンセールスアンドマーケティング（株）に社名変更。
2009年7月／三菱自動車の電気自動車（i-MiEV） に SDDナビを初めて納入。
2009年 10月／ 2009年モデル 5商品がグッドデザイン賞を受賞。

2010

2010年 1月／インド、タタ・モーターズ「ナノ」にカーオーディオを納入。
2010年 4月／クラリオン製造プロテック（株）とクラリオンサービス（株）を統合し、社名をクラリオンマニュファクチャリングアンドサービス（株）に変更。
2010年 5月／エコ運転アドバイス、省エネルート探索などの新機能を搭載したカーナビ「Smoonavi」シリーズ 2010年モデルを発売。
2010年 10月／登記上の本店所在地をさいたま新都心へ移転し、名称を「本社・技術センター」に変更。

2011

2011年 3月／世界初の車載用フルデジタルスピーカーを開発。
2011年 4月／白山分室・座間事業所をさいたま新都心へ集約。
新たに「本社事務所」を開設。

2012

2012年 6月／自動車向けクラウド情報ネットワークサービス「Smart Access」を構築、北米でサービス開始。
2012年 6月／クラウド情報ネットワークサービス「Smart Access」対応のナビゲーションシステムを発売。

2012
7型 車載 スマートフォンコントローラー
「Next GATE（SC1U）」を米国で発売

2012
ワイド7型 VGA 2DIN 地上デジタルTV/
DVD/SDAV-Naviシステム
「SD AVナビゲーション（NX712）」発売

Communication

戦略的でグローバルなコミュニケーション活動が、人と企業と社会を結ぶ

いくつもの国や地域、さまざまな文化やマーケットトレンド…。クラリオンの活動領域がグローバル化するに従って、お客様とのコミュニケーションの重要性はますます高まっています。企業姿勢の周知、ブランドの認知、製品情報の提供や新技術のPR、広告・宣伝などのプロモーション活動、ポータルサイトの拡充など、クラリオンでは世界各国のステークホルダーに向けて多岐にわたる活動を展開。「Clarion」ブランドをコアにしたグローバル戦略、地域性を重視したローカライズ戦略をバランスよく融合し、社会との良好な関係を築くためのコミュニケーション活動を積極的に進めています。

2012年
「2012 International CES
（コンシューマーエレクトロニクスショー）」に出展
（アメリカ）

2012年
「Next GATE & Smart Access」
プレス発表
（アメリカ）

2012年
「Smart Access」プレス発表
（マレーシア）

2012年
「新製品発表会」を開催
（東京）

2012年
「My Special Car Show」に出展
（イタリア）

2011年
「東京モーターショー」に出展
（東京）

2012年
「TATA プライベートショー」を開催
（インド）

2012年
「RENAULT NISSAN プライベートショー」を開催
（インド）

2011年
「Tech Show（技術展示会）」を開催
（本社・技術センター）

2012年
「全国バス事業者大会」に出展
（東京）

2012年
「人と車のテクノロジー展」に出展
（横浜）

2012年
「オート チャイナ
2012」に出展
（中国）

2012年
「Ford プライベートショー」を開催
（インド）

We are Clarion

ブランドの誇りと情熱を胸に、世界中で活躍するクラリオンスタッフ

優れた企業とは、高い志をともにする人財の集合によって成り立つもの。豊富なグローバルネットワークを展開するクラリオンでは、世界各国に「Clarion」ブランドを代表する顔として活躍する社員たちがいます。誰もが自らの仕事に誇りと責任を持ち、世界各国のお客様とよりよい関係を築くために日々努力しています。その一人ひとりの存在こそがクラリオンの価値をさらに高め、未来へ飛躍するための確かな礎となっています。

クラリオン中国（アモイ）
呉　炳先

2005年8月に入社し、機構設計担当として働いている呉です。現在は市販ナビ＆OEMナビ機種の構造開発をしています。この7年間、CXEEの機構開発は年を追うごとに規模が拡大しており、初期の頃は市販AUDIO機種のみでしたが、次にOEMのAUDIO機種、そして現在のナビ機種（市販とOEM）の開発をしてきました。毎日業務多忙ですが、部門の人達は皆意欲満々で仕事をしています。私も会社の発展とともに個人の能力を上げたいと思います。皆様、是非厚門に来てくださいね。

クラリオンフランス
ファンフェイ・マ

中国人のファンフェイ・マと申します。フランスコンピエーニュ市の工科大学および中国の上海大学を卒業して、2011年5月よりクラリオンに入社しました。クオリティーエンジニアとして、国際的にも大きなプロジェクトに参加し、いろいろな国の方々と仕事しております。当然フランスや日本の方だけではなく、ドイツ、中国とのコミュニケーションも頻繁です。中国語に加えて、フランス語、英語、そして日本語も少し話せますので、それぞれのPJメンバーとはより簡単にお話でき、国際的な環境の中で仕事が出来てとてもうれしく思います。今後、クラリオンの皆様とより良いチームになって、できるだけカスタマーサティスファクションを高めていけるように頑張ります。

私は名古屋営業所にて、対自動車メーカー窓口業務をおこなっています。新機種開発進捗フォロー、既存商権の納入、品質フォローを担当しています。拠点での役割は多岐にわたりますが、多くの人々と接し仕事ができることの素晴らしさを日々実感しています。

国内OEM営業部
原山 葉子

クラリオンマニュファクチャリングアンドサービス
柴田　直弘

CMSテクニカルセンター技術課の柴田直弘と申します。私は愛知県岡崎市生まれ、名古屋で入社して以来、埼玉、広島、郡山と数多くの方と出会いと経験をさせていただき、現在は日産自動車向けナビの修理を担当しております。家に帰れば2歳になる息子が仕事の疲れを癒してくれ、そんな家族と職場の仲間に囲まれ、これからも頑張っていこうと思っています。

クラリオン中国（ドンガン）
呉　文秀

皆さん、こんにちは！クラリオン中国DCOE生産管理部の呉 文秀と申します。生産で使用する部品の調整、管理を担当しています。スムーズな生産計画を遂行する為、合理的で確実な部品管理、生産技術の強化を行っています。また、従業員の積極性を十分に引き出し、生産の過程で必要な現場の管理力を強化し、安全第一を心掛けています。顧客に対し安全で高品質な製品を提供するために品質マニュアルに定められた事項を徹底的に遵守することによって製品の品質を保証し、生産コストを下げ製品の市場競争力を高めることができました。クラリオン入社16年目になりますが、これからも仕事をよりよくするために絶えず努力し、学び、成長します。自分を育ててくれたクラリオンに感謝しています。

現在、CV営業部首都圏営業課にてバス会社、架装会社等を担当しております。近年は業務内容も以前とは変わり、ハードのみならずデジタルサイネージ等の様々なシステム販売を行うトータルソリューション事業へと大きく変貌してきております。CV機器においては日本国内ではトップシェアを誇るクラリオンの更なる飛躍に貢献すべく、チーム一丸となって頑張っていきたいです。

クラリオンセールスアンドマーケティング
小山田　和

こんにちは、私はニコラ・フランコです。CEF OEM営業部で、フランスのお客様を担当しています。営業活動では信頼感を基本にしたパートナーシップを展開し、お客様のニーズに副った対応をすることが私の任務です。2011年にクラリオンに入社してから、OEM PJのために日本でクラリオンの方とお会いできたり、国際的な環境の中で仕事ができるので非常に面白いと思います。欧州では競争は大変激しいものの、皆様のアドバイスやご協力をいただきながら今後一緒に成功できるよう、頑張ります。

クラリオンフランス
ニコラ・フランコ

私はデパートの販売員や保育士を経験後、1990年、クラリオンに入社しました。（当時の製品ブランド・アゼストが私をこの会社に導いてくれたと思っています。）カーオーディオ製造に携わり、はや20年余り。現在はホンダアクセス向けや日産自動車向けのナビゲーション生産ラインのライン長業務を担当しております。製造部門では、お客様の満足にお応えする為、確実な品質の確保に向け、日々、様々な努力を行っております。時には仲間が助けてくれます。叱咤激励も有ります。製造部門のみならず、周りの方々に助けられ、協力し合い、より良い製品をより多くのお客様に届けたい。そんな事を思い描きながら、毎日明るく元気に頑張っています。

クラリオンマニュファクチャリング
アンドサービス
伊東　恵子

こんにちは！リラです。私は1998年からクラリオンハンガリーで働いております。ここで得た経験は、私に多くの可能性を与えてくれました。勤務開始当初はマネージメントの秘書として、後に総務課で環境保護関連のアシスタントを経て、現在は経理課で財務アシスタントというポジションに着いております。私の主な職務は、銀行預金の出納管理とキャッシュフロー計画の作成、そして、毎月 EU域内外・グループ内外の取引先との債権、債務確認や調整といった、窓口の役割を担っております。私が重要な目標に掲げていること、それは、社外の方とより良いコミュニケーションを構築し、そしてそれを継続することにあります。さあ、ともにクラリオンのためにがんばりましょう！ We are Clarion

クラリオンハンガリー
リラ バーンキネー

クラリオンセールスアンドマーケティング
明神　弘忠

現在、首都圏地区（東京・埼玉・神奈川・千葉・群馬）スズキ自動車向けのディーラーオプションを担当しています。最近ディーラーでのナビゲーション装着が増え、新車を売る際必要不可欠なアイテムとなっており、国内純正営業部と連携を取りながらナビ政策提案や勉強会実施などの営業活動にてシェアーUP、売上拡大を図っています。

私は国内自動車メーカー担当のOEM営業として、ナビやオーディオ、カメラなどの製品の提案・受注活動、既存商権のフォローを行っています。OEM製品は自動車メーカーの車両それぞれに合わせて専用で開発されますので、社内そして自動車メーカーと共にエンドユーザーの皆様に満足して頂ける製品を世の中に送り出すべく、日々奔走しております。

国内OEM営業部
溝口　直城

クラリオン中国DDCE品質保証部 裴 成錦です。会社に入ってすでに8年半になります。入社当初は単純な通訳からでしたが、今では部門内、部門間の業務の橋渡しや、日本とDCOEとの仕事のやり取りの中でたくさんのことを勉強してきましたが…海外出張で他拠点の業務のやり方を見た瞬間に、「井の中の蛙」のように自分がいかに力不足かということに気づきました。今後は、顧客が満足する品質の提供および維持の為に一段と頑張りたいと思います。

クラリオン中国（ドンガン）
裴　成錦